

## II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

### 1 国語

#### (1) 正答率

問 題	配 点	正 答		一部正答		誤 答		無 答		通 過 率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	4	400	89.9	0	0.0	44	9.9	1	0.2	89.9
	問 2	4	315	70.8	0	0.0	129	29.0	1	0.2	70.8
	問 3	6	217	48.8	74	16.6	133	29.9	21	4.7	57.5
	問 4	6	144	32.4	158	35.5	90	20.2	53	11.9	51.5
	問 5	5	268	60.2	0	0.0	172	38.7	5	1.1	60.2
2	問 1 (1)	2	393	88.3	0	0.0	47	10.6	5	1.1	88.3
	問 1 (2)	2	132	29.7	0	0.0	280	62.9	33	7.4	29.7
	問 1 (3)	2	322	72.4	0	0.0	116	26.1	7	1.6	72.4
	問 1 (4)	2	101	22.7	0	0.0	169	38.0	175	39.3	22.7
	問 1 (5)	2	354	79.6	0	0.0	39	8.8	52	11.7	79.6
	問 2	3	208	46.7	30	6.7	205	46.1	2	0.4	49.7
	問 3	3	269	60.4	0	0.0	174	39.1	2	0.4	60.4
	問 4 (2)	3	382	85.8	0	0.0	56	12.6	7	1.6	85.8
3	問 1	4	401	90.1	0	0.0	43	9.7	1	0.2	90.1
	問 2	6	87	19.6	173	38.9	145	32.6	40	9.0	40.4
	問 3	4	112	25.2	0	0.0	332	74.6	1	0.2	25.2
	問 4	4	229	51.5	0	0.0	214	48.1	2	0.4	51.5
	問 5	7	51	11.5	191	42.9	117	26.3	86	19.3	33.6
4	問 1	3	313	70.3	3	0.7	110	24.7	19	4.3	70.8
	問 2	3	297	66.7	0	0.0	144	32.4	4	0.9	66.7
	問 3	3	20	4.5	10	2.2	281	63.1	134	30.1	5.8
	問 4	3	255	57.3	0	0.0	183	41.1	7	1.6	57.3
5	16	40	9.0	380	85.4	18	4.0	7	1.6	62.4	

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

#### (2) 問題の内容

- 1 出典は額賀濤著『ジョックロックに笑え』である。問題文に使用した箇所は、野球部の元エースの立石大河が、甲子園を目指す仲間を応援するために、吹奏楽部の部長である不破瑛太郎に協力を仰ぎ、非協力的であった吹奏楽部員たちの心を動かしていく様子を描いた場面である。学校生活を中心にした場面設定から受検生が共感しやすいというだけでなく、登場人物の言動が心情豊かに表現されており、受検生の国語の力を多角的にみることができると考えられる。
- 2 漢字の読み書き、助動詞の意味(用法)、四字熟語の意味、話し合いの場面における発言や役割について答える問題である。
- 3 出典は船木亨著『現代思想講義』である。本書は、「群れ」社会への変容を、「人間」「国家」「意識」「政治」「道徳」「思考」の六つの主題に基づいて解き明かし、混迷する人類文明の行く末と、これからの生き方について論じた作品である。問題文に使用した箇所は、「第五章 道徳」の「2 群れとルール」の部分である。マナーとルールについての考察から、ルールの特徴について述べられており、マナーやルールという、受検生が日常生活の中で何気なく使っている言葉を改めて問い直すことにより、受検生自身の深い学びにつながるものと考えられる。
- 4 出典は『十訓抄』である。『十訓抄』は、中世鎌倉に成立したとされる説話集で、史書・物語などの中から、教訓的な約280の逸話を収録している。問題文に使用した箇所は、後京極摂政に、すぐれた歌詠みは誰かと尋ねられた宮内卿家隆が、すぐには答えずに、去り際に懐から和歌が書かれた紙をそれとなく落として、摂政に知らせたという話である。普段から、素晴らしいと思う和歌を持ち歩き、いざという時のために準備していた家隆の行為を称賛する内容である。
- 5 資料は、埼玉県『平成28年度「埼玉青少年の意識と行動調査」報告書』における「読書量(マンガや雑誌を除く)」の項目をもとに作成された棒グラフである。この資料から、「読書を推進するための取り組み」についての自分の考えが相手に効果的に伝わるよう、自己の体験をふまえ、展開を工夫して書く力をみる問題である。

### (3) 所見・解説

1 文学的な文章を理解する力をみようとした問題である。

問1 場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容を正確に理解する力をみる問題である。傍線部の直前の一文「立石！ 匿って！」や、その後の「主に宮地が怒ってる。だから、逃げてきた。」という表現から、不破が部活動から逃げてきた理由を読み取る。この読み取りに即した適切な選択肢ウを選ぶ。

問2 登場人物の描写に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題である。「不破は仏頂面をする。」という不破の心情は、彼の次のような発言から導くことができる。「げっ、森崎さんだ。」「だって、宮地がキレたときの森崎さん、獲物を見つけた猛獣の顔してたから。」などの表現から、不破は森崎に追われて不機嫌になっている様子が見える。不破の心情を読み取り、最も適切な選択肢イを選ぶ。

問3 登場人物の心情を読み取り、適切に表現する力をみる問題である。大河の心情を本文から読み取り、指示された文脈と字数に従って適切に表現することが求められる。大河が「生唾を飲み込んだ」理由は、傍線部の直後、次のように述べられている。「カメラのレンズが自分に向いている。心臓のあたりに、張り詰めたような緊張が走る。不破の奴、なんでこの状況で普通に振る舞えるんだ。」これらの表現から因果関係を整理して、大河の様子を指示された字数と文脈に合うようにまとめる。誤答としては、「心臓のあたりに、張り詰めたような緊張が走る」など本文から単に抜き出したものも多くみられた。

問4 登場人物の言動の意味を的確にとらえ、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。宮地の心情がどのように変化したのかを描写から読み取る。宮地の言動については次のように描かれている。

(1) 宮地が登場する場面「落雷みたいな音を立てて部室のドアが開いた。」「怒り心頭という顔の宮地」「怒鳴り声を必死に押さえつけるようにして、宮地が言う。」

(2) 宮地が瑛太郎の思いを知った後の言葉「瑛太郎を動かしたってことは、そういうことなんだよ。」「瑛太郎がやるなら、やりたくなる。瑛太郎ができるって言うなら、できる気がしてくる。だから、やってやるよ。」

瑛太郎が野球部を応援することに対し憤っていた宮地が、瑛太郎の思いに動かされ、野球部の応援もやろうという気持ちに変化している。この(1)から(2)への心情の変化について、指示された字数と文脈に合うようにまとめる。

問5 表現上の工夫に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題である。本文の表現効果について読み取り選択肢を選ぶ。選択肢エ「回想の場面を挿入することで、大河と宮地の関係性が次第に変わっていった」とあるが、本文中には回想の場面が挿入されておらず、大河と宮地の関係性が次第に変わっていったということも描かれていないため、選択肢エを選ぶ。

2 基礎的・基本的な言語能力をみようとした問題である。

問1 基本的な漢字の読み書きについての問題である。(2)「晩鐘」は、様々な誤答がみられた。「ばんりん」「ばんかね」「ばんがね」など「鐘」の読み誤りが多かった。(4)「根幹」は、「根冠」「根感」「根完」などや、「根」だけ記したものなど、誤答が多岐に渡っており、語彙として定着していない傾向がみられる。漢字の学習の際には、単語の読み書きにとどまらず、語彙として意味を理解するとともに、同音語や同訓語についても、文や文章の中で適切な漢字を判断しながら使うなどの学習の工夫が必要である。

問2 助動詞「れる」の意味(用法)についての理解を問う問題で、正答はアとオである。ウとオ、アとウという誤答がみられた。助動詞の意味や用法を理解する上で、前後に接続されている語の品詞の違いだけでなく、文脈上の意味に着目し、理解していく必要がある。

問3 四字熟語についての理解を問う問題で、正答はア「一朝一夕」である。誤答として多かったのは、エ「日進月歩」である。語彙の学習において、単に言葉と意味とを暗記するのではなく、実際に熟語を使って文章を書くなどしながら、文脈の中で適切に用いることを意識する必要がある。

問4 話し合いの場面において、発言の内容や、司会の発言の役割について答える問題である。(1)は【投書記事】の中から解答を探す、空欄の直後「～のだから、何かお手伝いのようなことでもいいのでやってみたいと思います。」へのつながりを考えると、正答は「身近な地域で行われる」となる。(2)の傍線部の発言は、「他の意見はありますか。」という司会の発言を受けた、CさんとDさんの発言に続くものである。傍線部の発言はCさんとDさんの発言を受けてその内容をまとめるものである。よって、正答はイである。

進行の仕方を工夫したり互いの考えを生かしたりしながら話し合う学習活動などを通じて、進行の仕方や司会の役割など、話すこと・聞くことについても普段から意識することが大切である。

3] 説明的な文章を理解する力をみようとした問題である。

問1 文章に書かれている内容を正しく読み取り、理解する力をみる問題である。傍線部の「それで」は、直前の内容を示しており、次の傍線部を含む一文「ひとと一緒に食べる場合、食べる量や速度を他のひとにあわせなければならない分、それで気苦労は増える。」を踏まえ、この読み取りに即した選択肢**エ**を選ぶ。

問2 文章の構成や展開に注意して内容を理解し、適切に表現する力をみる問題である。筆者が考えるマナーについて、本文の内容に即し、指示された文脈と字数で説明する。本文中の「その場で相手のやり方にあわせようとする」「文化が異なれば相手のマナーも異なることを互いに前提して伝えあおうとする」などの表現を基に、指示された字数と文脈に合わせて解答する。

問3 事実と意見などを読み分けることで、内容を的確にとらえる力をみる問題である。「一旦ルールが決まった」ときにはじまる「別のこと」にあてはらないものを選ぶ。本文では、「それぞれの都合や心情で、非難したりしなかったりする」という、想定外の行為を生みだしてしまう。」と述べられており、これは、選択肢**エ**の記述と矛盾している。他の選択肢については、本文中の記述と合致している。誤答は**ウ**が多くみられたが、根拠に基づいて本文を丁寧に読み取ることが必要である。

問4 文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容を正確に理解する力をみる問題である。空欄の一つ前の段落にルールについての記述「『ルールに反していること』が気になるようになる」「怒りという別の情念が生じる」という表現があり、次の段落では、マナーについて「そのような情念(ルールに反しているという怒り)は、～従来のマナーには伴ってはいなかったはずである。マナーに反するひとへの、ただマナーに反しているからという怒りは理不尽であり、そこには **I**。」と述べられている。また、空欄の直後に「ルール化されたマナーは、マナーとはあきらかに異なっている。」と述べられている。これらの表現からマナーをルールと解することによって、怒りという別の情念が生じていることが理解できる。これらの内容に合致する選択肢**ア**を選ぶ。

問5 文章全体と部分との関係をとらえ、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。筆者がルールを扱いにくいと考える理由について、本文の内容に即し、「解釈」「二重化」の2つの言葉を用いながら、指示された文脈と字数で説明する。

まず、「二重化」について、本文中では、以下のように述べられている。「ルールは、マナーのように曖昧だったり内容が変動したりしないように、言葉によって明示されるが、その明示のための言語のルールが別途にあって、それで二重化されてしまう。言葉によってたてられたルールは、言葉の適用についてのルールによって、もはや、単にマナーを明示したものではなくなくなってしまふからなのである。」

つまり、「二重化」の対象は、「言葉自体のルール」と「その言葉によって定められたルール」である。

続いて、「解釈」について、本文中では、以下のように述べられている。「表現の曖昧なルールが定められるとすれば、それはどんな行為なのかの解釈が分かれ」とあり、加えて、傍線部では、「厳密に定義しようと、あえて曖昧に定義しようと、必ず弊害が生じるという扱いにくいもの」とある。

且つ空欄の結びに注目すると、「～という弊害が生じるから。」とある。

また、解答には、ルールを定める場合の弊害を述べる必要がある。例えば、本文中では、以下のような弊害が述べられている。「ルールができれば抜け道を探すひと、そのグレーゾーンを活用するひとが出てくるし、そのルールを前提に新たな行為を企てようとするひとも出てくる。」がある。

こうした表現を参考にしながら、指示された文脈と字数で説明する。誤答には「解釈」や「二重化」という指定した語を使用しているものの、本文の文脈に合致しない使い方をしているものが多くみられた。

4] 古典を理解する基本的な力をみようとした問題である。

問1 歴史的仮名遣いについての理解をみる問題で、正答は「とわせたまいければ」である。誤答としては、「とはせたまいければ」「とはせたもいければ」などがみられた。文語のきまりを正確に理解するとともに、古文を音読し、古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れることが大切である。

問2 場面や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する力をみようとした。「御覽ぜられければ」の主語を解答する問題で、正答は**ウ**「後京極摂政」である。単に古文の大意を把握するだけでなく、登場人物の関係を意識しながら読むことが求められる。

問3 文章に書かれている内容を、叙述に基づいて的確にとらえる力をみる問題である。正答は「どの歌詠みが優れているか」であるが、誤答としては、「なぜ歌を持って歩いているか」「どうすればよい歌が詠めるか」など、文脈から内容を正しく読み取れなかったことに起因するものが多かった。文章の展開に即し、丁寧に読んでいく力をつける必要がある。

問4 古典に表れたもののみ方や考え方をとらえ、内容を理解する力をみる問題である。正答は**イ**の「素晴らしいと思っていた歌を、紙に書いて持ち歩いていた行為」である。誤答では、**ア**の

「事前に書いて持っていた自分の歌を、目につくように落とした行為」が多かった。古典に表れたものの見方や考え方を知るためには、登場人物や作者の思いなどを想像することが大切である。

- 5 資料から読み取ったことをもとに、「読書を推進するための取り組み」についての自分の考えを、構成を工夫しながら、自らの体験をふまえて書く力をみようとした問題である。資料は、『平成28年度「埼玉青少年の意識と行動調査」報告書』より作成したものである。

誤答としては、「読書を推進するための取り組み」について書いていないもの、示された資料から読み取ったことを書いていないものが多かった。また、誤字・脱字や接続詞の使い方に誤りのあるもの、文章としてのまとまりを欠くものなどがみられた。

自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができるように、目的に応じて複数の情報を整理しながら、構成や展開を工夫するなどして、普段から読み手を意識しながら文章を書く必要がある。